



令和2年産（令和元年播種）



麦類の生育概況 vol.5

埼玉県マスコット
「コバトン」

（令和2年4月1日現在）
埼玉県農業技術研究センター

要 約

◎気象概況：3月の平均気温はかなり高く、降水量は多かった。

◎生育概況：小麦、大麦とも播種期のばらつきによる生育の差が大きい。二条大麦は出穂始～揃となっており、小麦は11月上旬播きで出穂始めである。

◎今後取るべき技術対策

- ・追肥：出穂前に追肥ができず、葉色の低下している小麦ほ場では、穂揃期に葉面散布を行う。
- ・排水対策：排水機能を保つよう明渠と排水溝の点検補修を行う。
- ・雑草防除：カラスノエンドウ、カラスムギなど、収穫物に混入する恐れのある雑草は確実な除草を行う。
- ・病虫害防除：麦の生育に合わせた赤かび病防除計画をたて適期に防除を行う。

1 気象の概況

3月の平均気温は期間を通して平年を上回り、月平均では平年より 2.3℃高かった。降水量は第2、3、6半月にまとまった降雨があり、月合計では平年比 141%であった。日照時間は第4、5半月で平年の 168%と多く、第6半月で平年の 37%と少なかったが、月合計では平年比 105%であった。3月29日には県内の広い範囲で積雪があり、極値順位は熊谷で月最大 24 時間降水量(61.5mm)の2位を更新した。

2 生育の概況

(1) センター内生育相（11月8日播種）

ア 小麦（さとのそら）

先月と同様に、高温かつ土壌水分が多いため草丈は急速に伸長し、平年より生育が早まっている。莖数は平年を下回って推移している。穂数は高温により平年より早く無効分げつが切れあがり、平年よりやや少なくなる見込みである。

主稈総葉数は平年並みであり、出穂期は4月1日（平年4月12日）と、平年よりかなり早まっている。

イ 大麦（彩の星）

小麦同様、生育が早まり、草丈は平年を上回って推移している。莖数は平年を下回って推移したが、3月31日調査時には少し増加した。これは、遅発莖が発生したことによると考えられた。遅発莖の多くは収量にほとんど寄与しないた

め、有効穂数は平年より少なくなる見込みである。

主稈総葉数は平年よりわずかに少ない程度で、出穂期は平年より 20 日も早い 3 月 11 日となった。そのため、成熟期も平年（5 月 17 日）よりかなり早まると考えられ、5 月上旬頃になる見込みである。

雪の影響で、穂の折損、なびき型倒伏等が見られた。

(2) 県内全般

高温により生育は非常に進んでいる。11 月上中旬播きの「さとのそら」は出穂始め、「彩の星」は出穂始～出穂揃である。11 月下旬の降雨をはさんだ前後の播種時期の違いによる生育のばらつきは大きい。二条大麦は穂数が少ない傾向で、小麦、大麦とも葉色の淡いほ場が散見される。

3 今後の生育予測

(1) 気象予測

気象庁が4月2日に発表した向こう1か月予報では、平年と同様に晴れの日が多い見込みである。平均気温は1週目、2週目は平年並または低い確率ともに40%、3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%である。

また、3月25日発表の3か月予報では、5月の天気は数日の周期で変わり、気温はほぼ平年並の見込み、6月は平年と同様に曇りや雨の日が多く、気温は平年並から高い確率ともに40%である。

(2) 生育予測

今後、気温は平年並または高い予報のため、出穂期、成熟期は平年よりかなり前進すると考えられる。葉色の淡いほ場や莖数の少ないほ場がみられることから、肥料不足、穂数不足さらに強制的な登熟による減収が懸念される。

また3月24、25日の低温による凍霜害は県全体では大きくはないと考えられるが、一部で不稔や穂の障害という形で明らかになってくると考えられる。

4 今後取るべき技術対策

(1) 追肥

小麦のうち、出穂前に追肥ができず、葉色が低下しているほ場では、穂揃期に窒素成分で1～2kg/10a程度葉面散布を行い、1粒重の増加、タンパク質含有量の向上を図る。

(2) 排水対策

今後のまとまった降雨は、根の機能を低下させ湿害を助長する恐れがあるため、管理作業等で明きょが埋もれていないか、外部の排水路としっかり連結されているか等を確認し、不備があれば速やかに補修する。

(3) 雑草防除

麦類の出穂後は、ほ場内の手取り除草とほ場周囲の除草を徹底する。

特に、カラスノエンドウ、カラスムギなど、収穫物に子実が混入する恐れのある雑草は確実な除草を行う。

(4) 病害虫防除

赤かび病の防除は必ず実施する。防除適期は下表を目安にする。

本年度は麦類の生育が過去例のないほど早まっている。さらに近年、急激な高温により登熟期間が短縮される状況が多く見受けられる。収穫前日数の長い薬剤もあるため、使用基準を確認し、周辺ほ場への飛散防止に十分注意を払い、タイミングを逃さないように計画的な防除を実施する。

赤かび病防除の目安

小麦	<ul style="list-style-type: none">出穂から7～10日後を目安に開花初めを確認し、直ちに薬剤を散布。その後、降雨が継続した場合、開花10日後に追加の薬剤を散布。
二条大麦	<ul style="list-style-type: none">穂揃期の10日後に薬剤散布。
六条大麦	<ul style="list-style-type: none">穂揃期に薬剤を必ず散布。その後、降雨が継続した場合、開花10日後に追加の薬剤を散布。

解析・考察に用いた具体的数字

1 3月の気象表(熊谷気象台日別測定値から集計)

半旬	平均気温(°C)		最高気温(°C)		最低気温(°C)		降水量(mm)		日照時間(hr)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1	9.6	6.2	14.1	11.8	5.2	1.4	2.0	8.5	28.1	32.4
2	9.8	6.8	14.2	12.6	5.6	1.9	17.5	8.8	21.0	33.4
3	9.8	7.6	15.5	13.3	4.6	2.6	18.5	9.5	37.4	33.3
4	10.2	8.3	17.2	13.9	4.0	3.4	0.0	11.5	53.7	32.0
5	11.4	8.9	18.4	14.4	5.7	4.1	0.0	13.3	51.4	30.6
6	10.1	9.8	15.2	15.2	4.9	4.9	61.5	16.6	13.5	36.7
平均	10.2	7.9	15.8	13.5	5.0	3.1	合計 99.5	70.5	205.1	196.0

注. 半旬数値は熊谷気象台日別測定値から集計。ただし、月平均、合計値は気象台値。

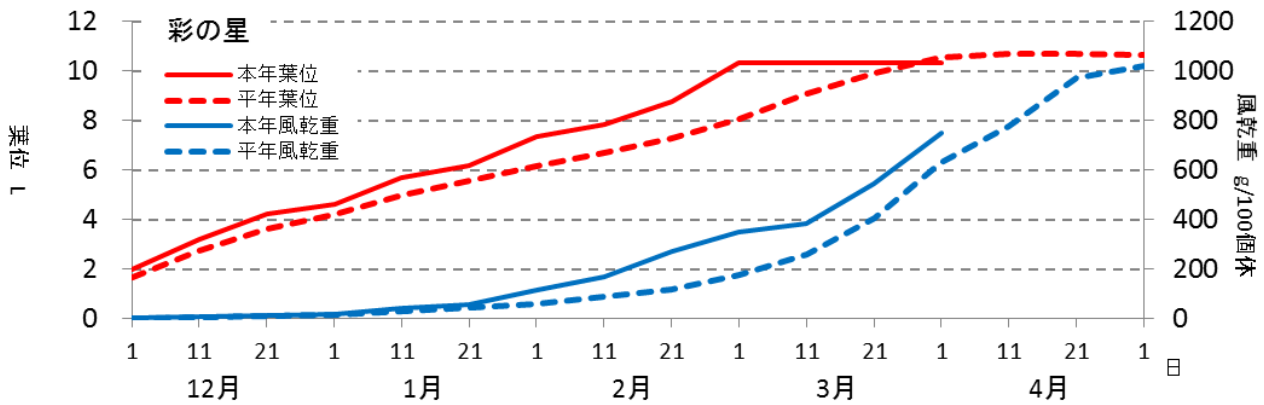
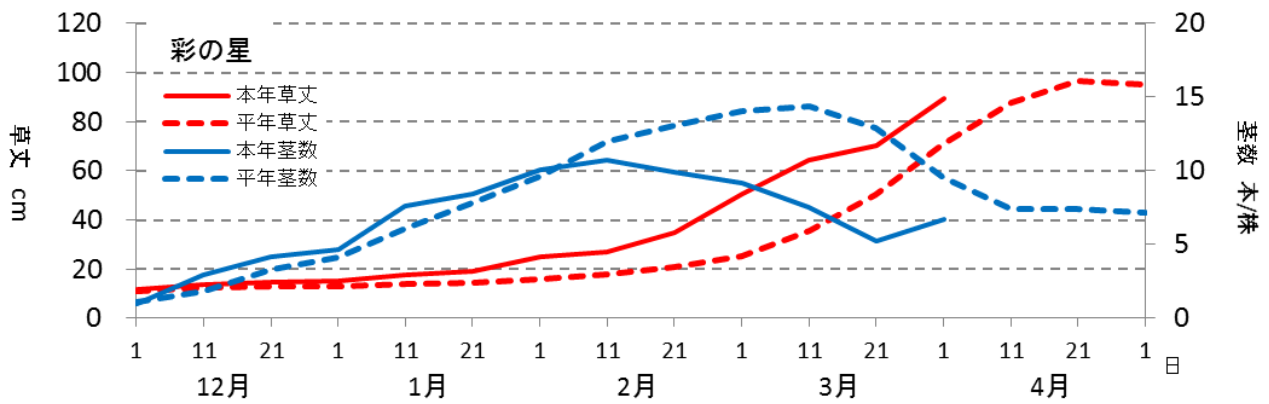
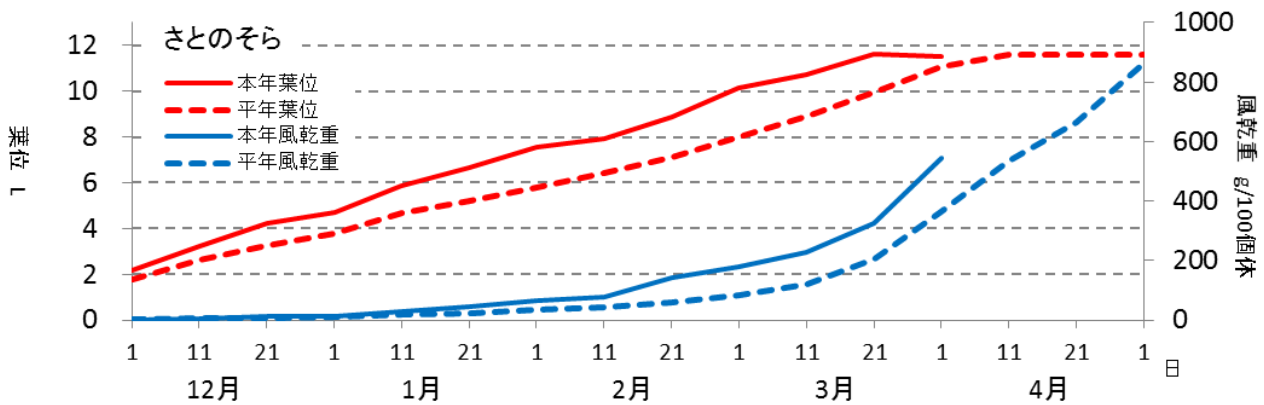
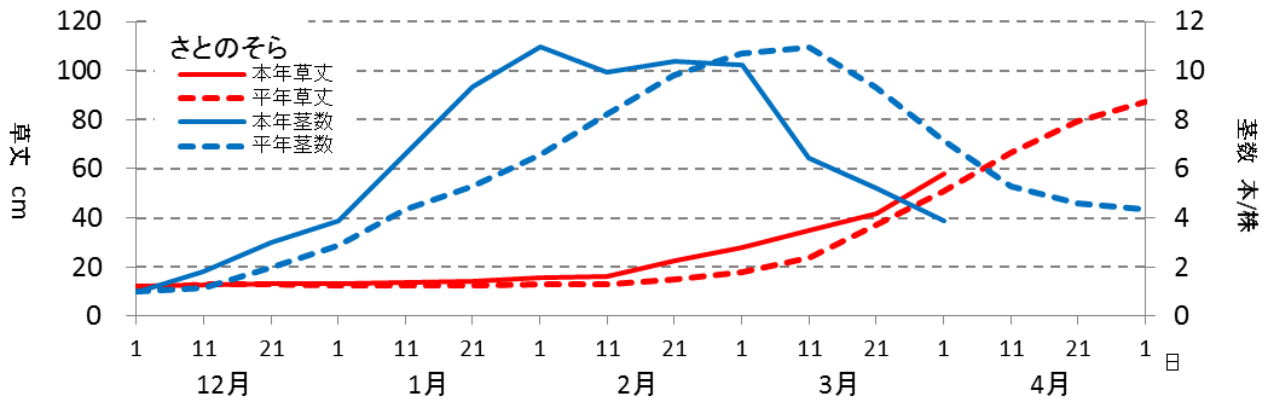
2 生育状況

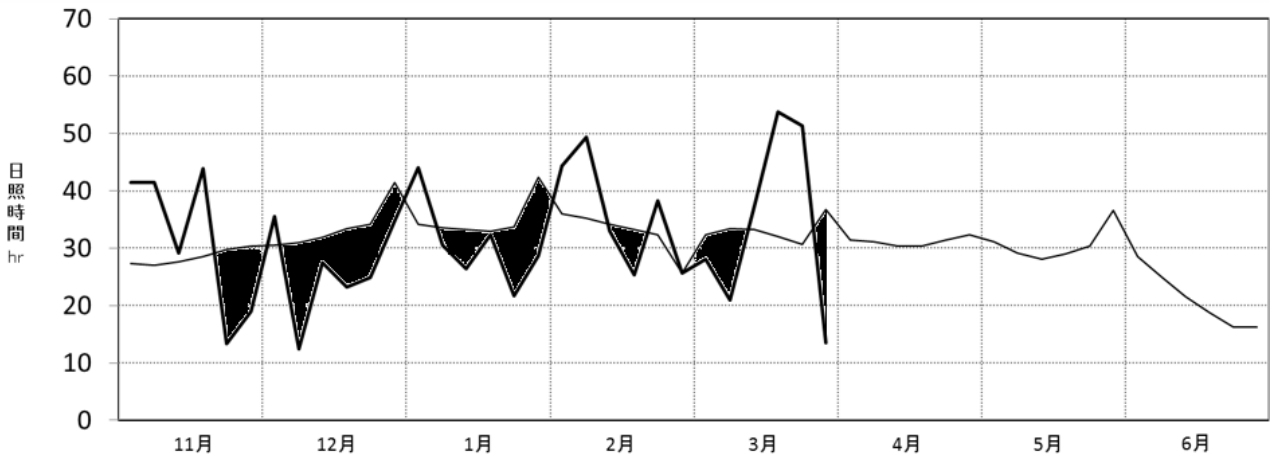
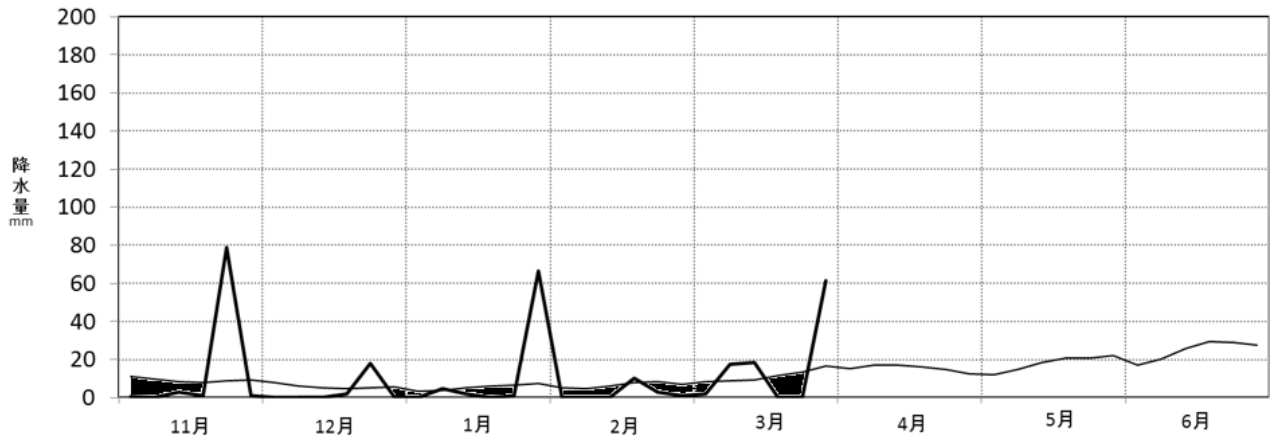
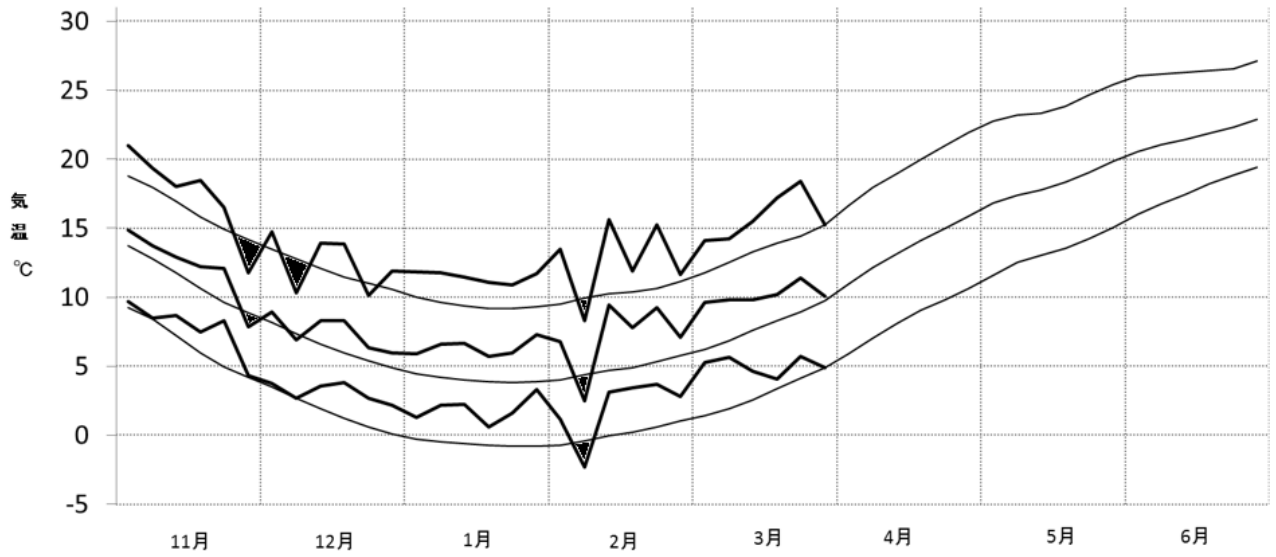
品 種 名	調査日	草 丈		茎 数		葉 位		風乾重		風乾歩合	
		本年 (cm)	平年比 (%)	本年 (本/株)	平年比 (%)	本年 (L)	平年差 (L)	本年 (g/100本)	平年比 (%)	本年 (%)	平年差
さとのそら	3月11日	34.7	147	6.4	59	10.7	1.8	227.5	187	18.4	2.2
	3月20日	41.7	113	5.2	56	11.6	1.7	324.0	159	25.5	8.1
	3月31日	57.9	114	3.9	54	11.5	0.4	545.1	151	27.7	6.9
彩の星	3月11日	64.2	181	7.6	53	10.3	1.2	387.0	147	18.8	5.3
	3月20日	70.5	140	5.2	40	10.3	0.4	547.1	135	24.5	9.5
	3月31日	89.6	126	6.7	70	10.3	-0.2	751.3	119	27.1	8.8

注1. さとのそら平年値は、過去6年間の平均値。□ 彩の星平年値は過去8年間の平均値。以下同様。

注2. 風乾重は、100個体当たりグラム。平年比は%。風乾歩合は風乾重/生体重。

3 生育経過





2019年冬作期間気象図
(熊谷地方気象台測定値)